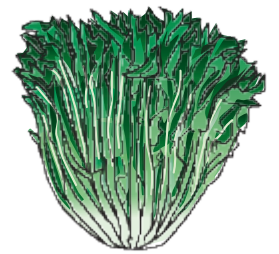


営農情報

ミズナの栽培



アブラナ科のミズナは、京都が原産地と考えられておりキョウナとも呼ばれています。

種まきから1〜2か月程度のやわらかい子株はシャキシャキとした歯ごたえとクセのない味を活かしたサラダなどの生食用に、大株に育てると鍋物や漬物に利用されます。

連作が出来ないので、前年にミズナやアブラナ科野菜（ハクサイ、ダイコン他）を植えた場所は避け、排水性・保水性のよい場所を選びましょう。

畑の準備

土づくりは、播種の約2週間前までに、排水と保水力をよくするため完熟堆肥を1㎡あたり2kg程度、酸度矯正用に苦土石灰200g程度を施用し、深く耕しておきます。元肥は、播種の約1週間前までに1㎡あたり有機

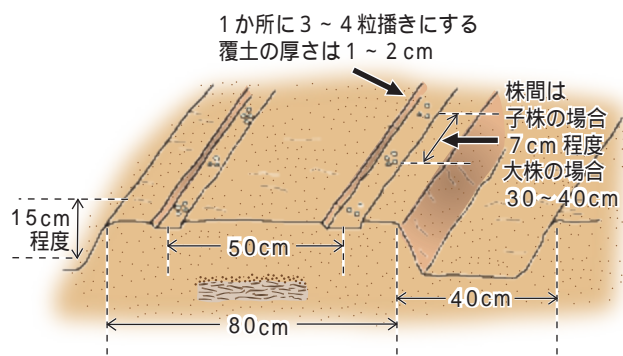
月	9	10	11	12	1
作型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地栽培	○	○	■	■	■

○ 種まき ■ 収穫
※大株どりの場合。
(小株の収穫は播種後約1か月頃～)

特A801号を100g程度施して深く耕しておきます。畝作りは、通路幅40cm程度、幅80cm程度、高さ15cm程度の畝を作ります。

直播栽培

左図のように、幅7〜8cm程度、深さ3〜4cm程度の播き溝を2列作り、1か所に3〜4粒程度播き、薄く覆土します。株間は、サラダなどに使用する子株採りでは7cm程度、鍋物や漬物用に大株採りにする場合は株間30〜40cmにします。播種後、乾燥すると生育が揃わないので、適度な湿り気を保つように丁寧に水やりをします。



成長初期は乾燥に弱いので、種まき後本葉が5〜6枚程度に育つまでは水を切らさないことが上手く育てるポイントです。発芽後、本葉が3枚の頃までに間引いて1本立てにします。

追肥・水やり

暖かいうちに生育を進ませるために、本葉5〜6枚の頃（背丈が15cmくらいになった頃）に追肥を行います。1㎡あたりFTE入り^{りんしょうあん}燐硝安加里S604号30g程度を条間・株間に施し、除草も兼ねて土に混ぜ込んでおきます。根が弱いので土寄せした時に根を切らないように注意し、軽く肥料と土を混ぜる程度にします。大株どりの収穫では、その1か月後にもう一回同量を施しますが、肥料切れになると葉色が薄く、茎が固くなり生育が遅れるので、生育後半の追肥は生育状況に応じて行いましょう。



